

知ってください！

北方領土問題

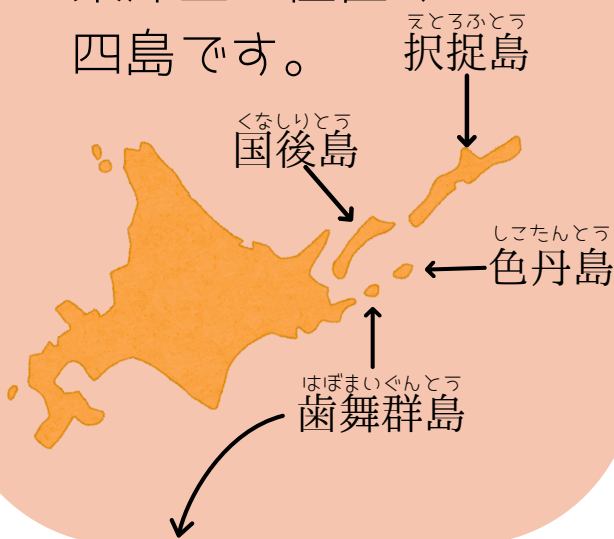
塩竈市現地視察団



私たち塩竈市現地視察団（塩竈市中学生20名）は、8月19日から2泊3日で、北海道根室市と標津町を訪問し、北方領土問題について学ぶ視察事業に参加しました。この視察で学んだことや感じたことの一部を紹介します。

北方四島の位置

北海道本島の北東洋上に位置する四島です。



北方領土問題とは

1945年8月の第二次世界大戦終了直後、ソ連軍が我が国の領土である北方四島に侵攻し、80年が経過した今もなおロシアが不法に占拠し続けているという問題です。

詳しくは「北方領土問題対策協会」のHPをご覧ください。



元島民角鹿（つのか）さんとの出会いから



つのか 角鹿 やすじ 泰司さん

北方四島の日も早い返還を目指して活動されている角鹿さんから、勇留島（歯舞群島の一つ）で幸せに暮らしていた様子やソ連軍に占拠された状況、現在のお気持ちなどについてお話を伺いました。「北方領土は私の故郷の思い出が詰まった**宝の島**」と力強く語る角鹿さん。幸せな暮らしが奪われてしまった角鹿さんたちの思いを想像すると、胸が締め付けられます。しかし、感傷に浸っているだけではなく、この問題を自分ごととして私たち一人ひとりが受け止めていかなくてはなりません。角鹿さんが「**当時を知る人が語る言葉と、知らない人が語る言葉は全然違う**。でもその両方の言葉があるからこそ、当時を伝え続けることができ、領土問題を過去のものにせず**に済む**」と語るように、私たちはこの問題を「今」のものとして捉え、行動を起こすことにしました。

視察を通して考えたこと

人と人との交流を大切にしたい。国同士がぶつかる解決は難しいが、住んでいる人どうしがつながれば、少しずつ理解が深まると思う。実際に交流を行った時、ロシアの方達は楽しそうだったと聞いたのでさらに交流を活発にすることが大切だと思う。(K・A)

北方領土問題は国と国との大きな問題であり、私たちだけで解決できるような問題ではない。しかし、何もできないわけではなく、私たちなりにできることはたくさんあると思う。私ごとではなく、みんなの関心や行動が、たち一人一人の道につながって、少しずつ解決への道につながると思う。(W・S)

これまで日本とロシアの間では北方領土返還の交渉が何度も行われてきましたが解決に至っていません。しかし、僕たちはあきらめずに北方領土問題を解決する気持ちを持ち続け、日本人が自由に四島へ行き来できる日が来ることを信じ、たくさんの人にこの事を知ってもらいたいと思います。(S・R)

北方領土問題を歴史の一部として考えるのではなく今を生きる私たちの課題として考え続けていくことが重要だと考えさせられました。もちろん一人の力で解決できる問題ではありませんが、学んだことを家族や友人に伝えていくことで関心を広げることができそうです。これからも学び続けて行動に繋げていきたいです。(S・A)

あなたの声を聞かせてください



チラシを読んだ感想はこちらから